

歴史人物を描いた文学作品 3

はじめに

「歴史人物を描いた文学作品」の第3回目は、戦国時代から江戸時代前期までの歴史人物40人を描いた文学作品を紹介します。織田信長から前田利常まで、作家の目を通した歴史人物を歴史小説という形で再認識していただければと思います。

なお、ここで紹介しました歴史小説は、資料リストも含めその人物を描いた全作品を紹介している訳ではなく、当館で選択させていただいた作品です。

[資料リスト](#)

1. 織田信長（おだ のぶなが） 1534～1582（天文3年～天正10年）

戦国・安土桃山時代の武将です。永禄3年(1560)桶狭間で今川義元を討ち取り、以後、尾張・美濃を基盤に兵農分離を進めた常備軍を編成し、鉄炮を組織的に活用しつつ全国統一を進めました。『鬼と人と 信長と光秀』堺屋太一著など、多くの作家が信長を描いています。

2. 滝川一益（たきがわ かずます） 1525～1586（大永5年～天正14年）

戦国・安土桃山時代の武将です。織田信長に仕え長篠合戦・武田氏討滅戦に功がありました。上野国などを領して関東管領として上野厩橋に拠りましたが、本能寺の変後に北条氏直に敗れ、その後天正11年(1583)賤ヶ岳の戦いで秀吉に、天正12年(1584)小牧・長久手の戦いで家康に敗れて、不遇のうち没しました。『忍の人・滝川一益』徳永真一郎著などがあります。

3. 九鬼嘉隆（くき よしたか） 1542～1600（天文11年～慶長5年）

戦国・安土桃山時代の武将です。織田信長に属し水軍の将として活躍しました。信長没後豊臣秀吉に属し志摩国鳥羽に封ぜられました。朝鮮の役では文禄元年(1592)に李舜臣の水軍と戦って敗れ、のち徳川家康に仕え隠退しました。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いでは西軍に属して子の守隆の臣が守る鳥羽を奪取して挙兵しましたが、西軍敗北後自殺しました。『戦鬼たちの海』白石一郎著などがあります。

4. 善住坊（ぜんじゅうぼう） ?～1573（?～天正元年）

戦国時代の鉄炮の名手です。元亀元年(1570)浅井長政が叛旗を翻したため、越前から京を経て岐阜城に戻ろうとする織田信長を、近江国千種（草）山中で狙撃して失敗しました。この狙撃は六角義賢が依頼したといわれます。近江国高島郡で潜伏中を捕えられ岐阜城下で処刑されました。善住坊を描いた『信長を撃いた男』南原幹雄著などがあります。

5. 雑賀孫一（さいが まごいち） 生没年不詳

戦国時代の国人で、本名は鈴木孫一重秀。紀伊国雑賀荘を拠点とする、本願寺の門徒国人団の組織「雑賀衆」の有力者です。関連作品は『尻啖え孫市』司馬遼太郎著などがあります。

6. 明智光秀（あけち みつひで） 1526～1582（大永6年～天正10年）

戦国・安土桃山時代の武将です。斎藤道三の死後諸国を遍歴し、永禄元年(1558)織田信長に仕えました。丹波を攻略し天正10年(1582)秀吉の中国征伐の援軍を命じられましたが、同年6

月 2 日京都の本能寺に信長を襲い（本能寺の変）自害させました。同年 6 月 13 日山崎の戦いで秀吉に敗れ、逃走中に農民に殺されました。光秀を描いた『明智光秀』徳永真一郎著などがあります。

7. 細川ガラシア（ほそかわ ガラシア） 1563～1600（永禄 6 年～慶長 5 年）

明智光秀の次女で細川忠興の妻です。名は玉でガラシアは洗礼名です。天正 6 年(1578)細川忠興の妻になり、本能寺の変の際忠興から幽閉されました。天正 12 年(1584)秀吉から許され復縁しました。慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いの際、石田三成は東軍諸将から人質を得ようとし、ガラシアを大坂城に入城させようとしたましたが、拒否して死にました。関連作品は『細川ガラシャ夫人』三浦綾子著などがあります。

8. 鍋島直茂（なべしま なおしげ） 1538～1618（天文 7 年～元和 4 年）

安土桃山・江戸前期の武将。肥前の戦国大名龍造寺隆信に仕え、天正 12 年(1584)隆信が島津勢に敗れて戦死すると龍造寺家の実権を握りました。以後秀吉に従って島津氏を攻略し、天正 18 年(1590)には龍造寺家を相続しました。文禄・慶長の役(1592～93・1597～98)にも出陣し、帰国後徳川家康と誼を通じました。直茂を描いた『葉隠の名将鍋島直茂』童門冬二著などがあります。

9. 柴田勝家（しばた かついえ） 1522～1583（大永 2 年～天正 11 年）

安土・桃山時代の武将。斯波氏の一族といえます。信長の弟信行に仕え、弘治 2 年(1556)信長を倒して信行の擁立を謀りましたが失敗しました。剃髪して許され、以後信長に仕え家臣として戦功をあげました。天正 10 年(1582)本能寺の変では光秀征伐を秀吉に先んじられ、信長の後嗣で秀吉と対立しました。天正 11 年(1583)年、賤ヶ岳の戦いで秀吉に敗れ居城北ノ庄に戻って自刃しました。関連作品は『柴田勝家』安西篤子著などがあります。

10. 竹中半兵衛（たけなか はんべえ） 1544～1579（天文 13 年～天正 7 年）

戦国時代の武将。名は重治。はじめ斎藤龍興の家臣。浅井長政、織田信長に仕え、のち秀吉の配下になりました。秀吉の中国経略に黒田孝高と共に参謀格を務めました。天正 7 年(1579)播磨国三木城攻撃中に陣中で没しました。半兵衛を描いた『軍師竹中半兵衛』笹沢左保著などがあります。

11. 豊臣秀吉（とよとみ ひでよし） 1536(37)～1598（天文 5 年～慶長 3 年）

豊臣政権の主権者。関白。足軽木下弥右衛門の子として尾張国愛知郡中村に生まれました。天文 22 年(1553)織田信長の草履取になり頭角を表わしました。信長が天正 10 年(1582)に本能寺の変で倒れると後継者となり全国を統一しました。2 度に渡り朝鮮出兵（文禄・慶長の役）を行い、慶長 3 年(1598)豊臣秀頼の将来を案じながら亡くなりました。秀吉を描いた『おれは藤吉郎 新太閤記』早乙女貢著などがあります。

12. 豊臣（羽柴）秀長（とよとみ ひでなが） 1540～1591（天文 9 年～天正 19 年）

安土・桃山時代の武将。秀吉の異父弟。秀吉を補佐して各地で戦功を上げ、紀伊・和泉・大和で 100 万石を領しました。秀長を描いた『豊臣秀長』堺屋太一著などがあります。

13. 豊臣秀次（とよとみ ひでつぐ） 1568～1595（永禄 11 年～文禄 4 年）

安土・桃山時代の大名。三好吉房の子、母は秀吉の姉です。天正 13 年(1585)紀伊の根来衆攻略や四国征討に功があり、近江八幡城主となり 43 万石を領しました。天正 19 年(1591)秀吉の長男鶴松の死後、秀吉の養子となり関白に叙せられ聚楽第に居住しました。文禄 2 年(1593)豊臣秀頼誕生後は秀吉と不和になり、秀吉の命により高野山で自殺しました。秀次を描いた『有

明の月』沢田ふじ子著などの作品があります。

14. 千利休（せんのりきゅう） 1522～1591（大永2年～天正19年）

安土・桃山時代の茶人。祖父千阿弥が将軍足利義政の同朋衆といわれ、その一字をとって千家と称したといえます。名は宗易。草庵での簡素で静寂と清浄を旨とする侘数寄の茶道を大成し、織田信長及び豊臣秀吉の茶頭になりました。天正18年(1590)小田原の役後、秀吉から罪せられ翌年自刃しました。関連作品に『利休と秀吉』邦光史郎著などがあります。

15. 蜂須賀正勝（はちすか まさかつ） 1526～1586（大永6年～天正14年）

戦国・安土桃山時代の武将。尾張国海部郡蜂須賀（愛知県あま市）の生まれ。幼名小六。はじめ斎藤道三に仕え、ついで織田家に仕えました。のち木下（豊臣）秀吉の属将になりました。秀吉に従って越前・播磨・中国筋などで戦い、功により子の家政に阿波国が与えられました。正勝を描いた『楼岸夢一定』佐藤雅美著などがあります。

16. 山内一豊（やまのうち かずとよ） 1546～1605（天文15年～慶長10年）

安土・桃山時代の武将。豊臣秀吉に仕え天正5年(1577)播磨に2000石を知行。天正9年(1581)織田信長が京で行った馬揃えに名馬で参列して信長から讃辞を受けました。天正11年(1583)賤ヶ岳の戦い、天正12年(1584)小牧・長久手の戦いで功を上げ、天正13年(1585)長浜城主になりました。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いで東軍につきその功で土佐国20万石に封ぜられました。一豊を描いた『功名が辻』司馬遼太郎著などがあります。

17. 立花宗茂（たちばな むねしげ） 1569～1642（永禄12年～寛永19年）

安土桃山・江戸前期の大名。大友氏の一族高橋紹運の長男。戸次（立花）道雪の養子。天正15年(1587)秀吉の九州平定に伴い柳川城主となり13万石を領しました。文禄・慶長の役(1592-93、1597-98)に出征。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いでは西軍につき敗れて帰国、その直後に鍋島氏に攻められ改易されました。慶長8年(1603)徳川秀忠に仕え、陸奥国棚倉1万石の大名となり、元和6年(1620)旧領の柳川藩主になりました。宗茂を描いた『小説立花宗茂』童門冬二著などがあります。

18. 黒田孝高（如水）（くろだ よしたか） 1546～1604（天文15年～慶長9年）

安土桃山・江戸初期の武将。名は官兵衛、号は如水。天正元年(1573)織田信長に拝謁し嫡子長政を人質にして、秀吉率いる中国征討軍の先鋒となりました。天正6年(1578)荒木村重の反乱に際し村重に和を勧めましたが幽閉されました。天正15年(1587)秀吉の九州平定に功をあげ豊前国中津で12万石を領しました。秀吉没後は家康につき、慶長5年(1600)関ヶ原の戦いでは豊後国で三成派を討ちました。関連作品に『播磨灘物語』司馬遼太郎著などがあります。

19. 前田利家（まえだ としいえ） 1538～1599（天文7年～慶長4年）

安土・桃山時代の武将。幼少から織田信長に仕え、永禄3年(1560)桶狭間の合戦、越前朝倉氏攻め、長篠の戦いなどに参加しました。能登一国を与えられて七尾城に拠りました。上杉景勝と戦い、天正11年(1583)の賤ヶ岳の戦いでは柴田勝家につきましたが途中で戦線離脱しました。同年秀吉より加賀国に2郡を与えられ金沢城に移りました。のち五大老に列し、慶長3年(1598)秀吉の死後秀頼を補佐し、伏見城から大坂城へ移りました。利家を描いた『前田利家』津本陽著などがあります。

20. 石田三成（いしだ みつなり） 1560～1600（永禄3年～慶長5年）

安土・桃山時代の武将。近江国坂田郡石田村の生まれ。幼少の時から秀吉に仕え、その聡明・俊敏を秀吉に愛されました。秀吉の全国統一事業の立案・遂行にあたり、文禄4年(1595)近江

国佐和山城主となり 19 万 4 千石を領しました。秀吉の死後徳川家康に対抗し豊臣秀頼を盛り立てましたが、慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いに敗れ斬首されました。関連作品に『関ヶ原』司馬遼太郎著などがあります。

21. 大谷吉継 (おおたに よしつぐ) 1559～1600 (永禄 2 年～慶長 5 年)

安土・桃山時代の武将。天正 11 年(1583)の賤ヶ岳の戦いで戦功を上げ、天正 13 年(1585)越前国敦賀城主となり 5 万石を領しました。文禄・慶長の役(1592-93・1597-98)に従軍し、帰国後は伏見城の築城を分担しました。その後らい病で盲目となりました。慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いでは西軍につき小早川秀秋の裏切りで戦死しました。吉継を描いた『名将大谷刑部』南原幹雄著などがあります。

22. 小早川秀秋 (こばやかかわ ひであき) 1582～1602 (天正 10 年～慶長 7 年)

安土・桃山時代の大名。木下家定の子、秀吉正室ねねの甥です。幼少からねねに養われ、秀吉の養子となり丹波国亀山を領しました。天正 19 年(1591)小早川隆景の養嗣子となりました。慶長の役(1597-98)では軽挙な行動があり秀吉に忌避されましたが、家康の助言で免れました。慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いでは西軍に属しながら家康に内応し、東軍を勝利に導きました。秀秋を描いた『小早川秀秋の悲劇』笹沢左保著などがあります。

23. 出雲阿国 (いずものおくに) 生没年不詳

安土・桃山時代の女性芸能者で、「かぶき踊り」の創始者です。自ら出雲大社の巫女と称したので出雲阿国が通称になりました。天正 10 年(1582)に奈良春日社若宮の拝殿で「ややこ踊り」を踊ったのが初見といわれ当時 11 歳と伝わります。その後、無頼の徒の異風・異相の扮装をし、舞台・風俗の描写が奇抜で一世を風靡しました。関連作品に『出雲の阿国』有吉佐和子著などがあります。

24. 加藤清正 (かとう きよまさ) 1562～1611 (永禄 5 年～慶長 16 年)

安土・桃山・江戸前期の武将。豊臣秀吉に仕え天正 8 年(1580)に 120 石を給され、天正 11 年(1583)賤ヶ岳の戦いでは 7 本槍の 1 人で、3000 石を加増されました。天正 16 年(1588)肥後半国と熊本城を領しました。文禄・慶長の役(1592-93・1597-98)に従軍し、慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いでは東軍につき九州で小西行長・立花宗茂を攻めました。清正を描いた『加藤清正』海音寺潮五郎著などがあります。

25. 北政所・高台院 (きたのまんどころ こうだいいん) 1548～1624 (天文 17 年～寛永元年)

豊臣秀吉の糟糠の妻。名はねね。法名は高台院湖月心公。14 歳の時に 26 歳の秀吉に嫁しました。天正 13 年(1585)従三位北政所と称され、秀吉の没後落飾して高台院と称しました。慶長 10 年(1605)家康の援助を得て高台寺を建立し、豊臣氏滅亡後も静かな余生を送りました。関連作品に『王者の妻』永井路子著などがあります。

26. 淀殿 (よど どの) 1567～1615 (永禄 10 年～元和元年)

豊臣秀吉の側室。浅井長政の長女。母は織田信長の妹小谷方。天正元年(1573)父長政の死後小谷方は柴田勝家と再婚し、天正 11 年(1583)賤ヶ岳の戦いで勝家が敗れると妹と共に秀吉に引き取られました。側室として山城国淀城にいたので淀殿と呼ばれます。文禄 2 年(1593)豊臣秀頼を生み権勢を握りました。慶長 19 年～元和元年(1614-15)の大坂の陣では大坂城に籠城して徳川勢と戦いましたが、落城して自刃しました。淀殿を描いた『淀どの日記』井上靖著などがあります。

27. 真田幸村 (さなだ ゆきむら) 1569～1615 (永禄 12 年～元和元年)

江戸前期の武将。慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いでは西軍に加わり、父昌幸と共に徳川秀忠軍を中山道で阻止しました。戦後高野山麓の九度山に追放されましたが、大坂の陣では豊臣秀頼に加勢して大坂城に入りました。慶長 19 年(1614)冬の陣では真田丸を築いて力戦し、翌年の夏の陣では松平忠直の軍勢と激戦の末戦死しました。関連作品に『行け真田十勇士』宗田理著などがあります。

28. 長宗我部盛親 (ちょうそかべ もりちか) 1575～1615 (天正 3 年～元和元年)

安土・桃山時代の武将。長宗我部元親の 4 男。慶長 4 年(1599)家督を継ぎました。慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いで西軍に属し戦うことなく帰国し、戦後領国を没収されました。慶長 19 年～元和元年(1614-15)の大坂の陣では豊臣秀頼に加勢しましたが敗走し、捕えられて京都六条河原で斬殺されました。盛親を描いた『戦雲の夢』司馬遼太郎著などがあります。

29. 徳川家康 (とくがわ いえやす) 1542～1616 (天文 11 年～元和 2 年)

徳川幕府の初代将軍。6 歳で織田信秀、次いで今川義元の人質になりました。永禄 3 年(1560)桶狭間の戦いで今川義元が敗死ののち、永禄 5 年(1562)から織田信長と同盟しました。天正 10 年(1582)本能寺の変の後秀吉と対立しましたが、天正 14 年(1586)和睦し以後秀吉の全国統一に協力しました。秀吉の死後関ヶ原の戦いで対抗勢力を一掃し、慶長 8 年(1603)征夷大将軍に任ぜられました。慶長 10 年(1605)将軍職を秀忠に譲り、慶長 19 年～20 年(1614～1615)大坂の陣で豊臣氏を滅ぼして天下統一を成し遂げました。家康を描いた『新三河物語』宮城谷昌光著などがあります。

30. 崇源院 [お江] (すうげんいん [おごう]) 1573～1626 (天正元年～寛永 3 年)

徳川秀忠夫人。浅井長政の 3 女。母は織田信長の妹小谷方。初め豊臣秀勝に嫁ぎのち徳川秀忠に再嫁して、千姫・家光・忠長・和子を生まれました。死後崇源院と諡しています。関連作品に『徳川秀忠の妻』吉屋信子著などがあります。

31. 千姫 (せんひめ) 1597～1666 (慶長 2 年～寛文 6 年)

2 代将軍徳川秀忠の娘。慶長 8 年(1603)政略で豊臣秀頼に嫁し大坂城に入りました。大坂の陣で落城後は江戸に下向し、元和 2 年(1616)本多忠刻に再嫁しています。寛永 3 年(1626)忠刻の死後は落飾して竹橋御殿に入り北之丸殿と呼ばれました。千姫を描いた『千姫春秋記』円地文子著などがあります。

32. 東福門院 (とうふくもんいん) 1607～1678 (慶長 12 年～延宝 6 年)

後水尾天皇の中宮。2 代将軍徳川秀忠の娘で名は和子。母は崇源院 [お江]。徳川幕府と朝廷のきずなとして、14 歳で後水尾天皇の女御として入内しました。13 年間で 2 皇子 5 皇女を生まれました。東福門院を描いた作品に『東福門院和子の涙』宮尾登美子著などがあります。

33. 松平忠輝 (まつだいら ただてる) 1592～1683 (文禄元年～天和 3 年)

江戸前期の大名。徳川家康の 6 男。室は伊達政宗の娘。慶長 15 年(1610)越後 55 万石を領して高田城主になりました。元和 2 年(1616)には家康や秀忠との不和から伊勢国朝熊岳金剛證寺に流されました。忠輝を描いた『捨て童子松平忠輝』隆慶一郎著などがあります。

34. 山田長政 (やまだ ながまさ) ?～1630? (?～寛永 7 年?)

江戸前期、シャム (タイ) の日本人町で活躍しました。もと沼津城主大久保忠佐の駕籠かきといわれます。慶長 16 年(1611)頃朱印船でシャムに渡り、アユタヤ東南の日本人町に居住しました。日本人町の頭になり国王ソンタムの信任を得て位を極めました。国王の死後、王位継

承の争いで負傷して亡くなりました。長政を描いた『王国への道』遠藤周作著などの作品があります。

35. 伊達政宗 (だて まさむね) 1567～1636 (永禄 10 年～寛永 13 年)

戦国時代・江戸前期の大名。天正 13 年(1585)父が畠山義継に討たれると、周辺の大名を攻め、天正 17 年(1589)には蘆名氏を討ち三春・出羽・白河に版図を拡大しました。天正 18 年(1590)小田原出兵に際し豊臣秀吉に屈服し、所領を没収され新たに米沢を与えられました。文禄元年(1592)朝鮮に出兵し、慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いでは東軍につき上杉景勝と戦いました。江戸幕府成立後仙台藩 62 万石の大名となりました。政宗を描いた『伊達政宗』山岡荘八著などの作品があります。

36. 宮本武蔵 (みやもと むさし) 1584～1645 (天正 12 年～正保 2 年)

江戸前期の剣豪。新免無二斎の子。生まれは美作とも播磨とも言われます。慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦いで西軍に加わり、のち諸国を流浪しました。吉岡清十郎らと立会い二刀流の奥義を開眼しました。生涯で 60 回以上の試合を行い敗れたことがないと言われます。特に慶長 17 年(1612)4 月 3 日の船島(巖流島)における佐々木巖流との試合は有名です。小倉藩に留まったのち熊本藩主細川忠利の客分になりました。武蔵を描いた『求天記 宮本武蔵正伝』加藤廣著などの作品があります。

37. 佐々木巖流【小次郎】(ささき がんりゅう) ?～1612? (?～慶長 17 年?)

安土桃山時代・江戸時代の剣客。名は小次郎、岸柳。諸国を武者修行し燕返しの剣法を生み出しました。播磨で新免無二斎を討ち、その子宮本武蔵と慶長 17 年(1612)巖流島の決闘で敗れ敗死したと伝わります。関連作品に『佐々木小次郎』高橋義夫著などの作品があります。

38. 藤堂高虎 (とうどう たかとら) 1556～1630 (弘治 2 年～寛永 7 年)

安土桃山時代・江戸前期の武将。浅井長政・織田信澄・羽柴秀長などに仕え、秀長没後はその猶子秀俊の後見となり、文禄の役(1592～93)は秀俊に代わり出兵しました。秀俊没後は秀吉に仕え伊予国宇和島で 7 万石を領しました。秀吉没後は家康に近づき、慶長 5 年(1600)関ヶ原の戦後に伊勢・伊賀国などで 32 万石余を領しました。高虎を描いた『戦国業師列伝』津本陽著などの作品があります。

39. 徳川家光 (とくがわ いえみつ) 1604～1651 (慶長 9 年～慶安 4 年)

江戸幕府 3 代将軍。元和 9 年(1623)7 月 27 日将軍就任。将軍在職にあたり酒井忠世・土井利勝、のち阿部忠秋・堀田正盛・松平信綱らの補佐で幕政にあたりました。家光の治世下では武家諸法度・職制・兵制・参勤交代制などの諸制度が整備されました。また、キリシタン弾圧と貿易統制のため鎖国を実施し、幕政を安定させました。家光を描いた『徳川家光』山岡荘八著などの作品があります。

40. 前田利常 (まえだ としつね) 1593～1658 (文禄 2 年～万治元年)

江戸前期の大名で前田利家の 4 男です。兄利長の養嗣子となり徳川秀忠の次女天徳院を室としました。大坂の陣に従軍し戦功をあげています。寛永 8 年(1631)に謀叛の疑いを幕府から受け江戸に赴いて釈明しました。正保 2 年(1645)後嗣光高の急死で、孫の綱紀の後見として藩政に復帰し、改作仕法などで農村を支配しました。幕府の嫌疑を逃れるため故意に狂気・凡庸を装ったといわれます。利常を描いた『前田利常』戸部新十郎著などの作品があります。

【参考文献】

『コンサイス日本人名事典』三省堂 平成 16 年 7 月

